

2017年12月5日

防衛大臣

小野寺 五典 様

秋田県平和センター

共同代表 石田 寛

共同代表 櫻田 憂子

共同代表 湯沢とし子

山口県平和運動フォーラム

議長 榊本 康仁

フォーラム平和・人権・環境

共同代表 福山 真劫

共同代表 藤本 泰成

「イージス・アショア」配備計画の撤回を求める申し入れ書

平素より、国民生活の安定と安全のためにご尽力されていますことに対して、心より敬意を表します。

さて、報道等によると、政府は北朝鮮による弾道ミサイル発射に対処するためとして、地上配備型迎撃ミサイル「イージス・アショア」を2基導入し、2023年度から運用を開始する方針を示し、その配備先として、山口県と秋田県を候補に挙げ、調整に入っているとされています。

このことは、朝鮮半島の緊張を利用して米国から武器等を購入することによって、軍事的な日米の経済連携を推進することにつながり、かえってアジアの緊張を高めるものと考えます。この間の北朝鮮による度重なるミサイル発射についての脅威への対応として、日米両国は、力による対決姿勢ではなく、対話を基調とした外交的な努力によって解決をはかるべきです。

そもそも、「イージス・アショア」のシステムの性能は信頼できるのか、強力な電磁波を出すとされている本機の運用により地元住民にどのような影響を与えるのか、などについて配備候補地とされる住民に対する詳細な説明が全くされないままに配備計画が一方的に進められていることに対して、強い憤りを感じます。

また、購入費は1基当たり約800億円とも言われています。厳しい国家予算において、国民の暮らしに直結する社会保障費などが切り下げられる中、このような高額な武器等の購入は、国民の一人として、断じて容認することはできません。「イージス・アショア」は、山口県・秋田県はもとより、国内のどの地域にも配備されるべきではありません。

つきましては、「イージス・アショア」配備計画の速やかな撤回を強く申し入れます。

また、以下の項目につきご回答いただければ幸いです。

記

1. 2023 年度に運用を目指すとされているが、6 年以上先のどういった事態を想定しての配備計画であるのか、ご説明いただきたい。

2. 本年 6 月、ハワイ沖で実施した「SM3 ブロック 2 A」の発射実験は失敗したと伝えられるところだが、配備計画をしているイージス・アショアにかかわり、イージスシステムおよび迎撃ミサイルによる標的ミサイルの追尾・破壊にいたるその性能は、信頼性の高い技術があるといえるのか、ご説明いただきたい。

3. イージス・アショアの配備に伴い、候補地両県の地元における自衛隊の部隊運用に変化はあるのか。

4. イージス・アショアの運用にあたり、在日米軍とは、情報共有の他、どのような連携が想定されているのか。

5. イージス・アショアの配備計画で、なぜ山口県萩市むつみ地区と秋田県秋田市新屋地区が候補地となったのか、ご説明いただきたい。

6. イージス・アショアの配備について、県民への説明会等を実施する予定はあるのか。

7. イージス・アショアの運用で強力な電磁波が発生するとされており、これにより県民生活や経済、及び環境への影響が懸念される場所であるが、具体的な対処方針はあるのか。

8. 配備予定のイージス・アショアの運用基準はあるのか。また、北朝鮮が日本以外の他国に向けミサイル発射した場合、自衛隊が迎撃するために、イージス・アショアを運用することは可能であるのか。

以上